

金沢大学医薬保健研究域附属健康増進科学センター 看護に役立つポケットエコーを用いたアセスメントプロジェクト

エコー技術を臨床看護のアセスメント技術として普及させる取り組みを東京大学 真田弘美教授・藪中幸一特任助教らのグループが中心となって始動させました。これに呼応し、本学でも看護学における非侵襲的アセスメント機器である携帯型超音波診断装置（ポケットエコー）を用いた実証研究に関するプロジェクトを2014年に始めました。

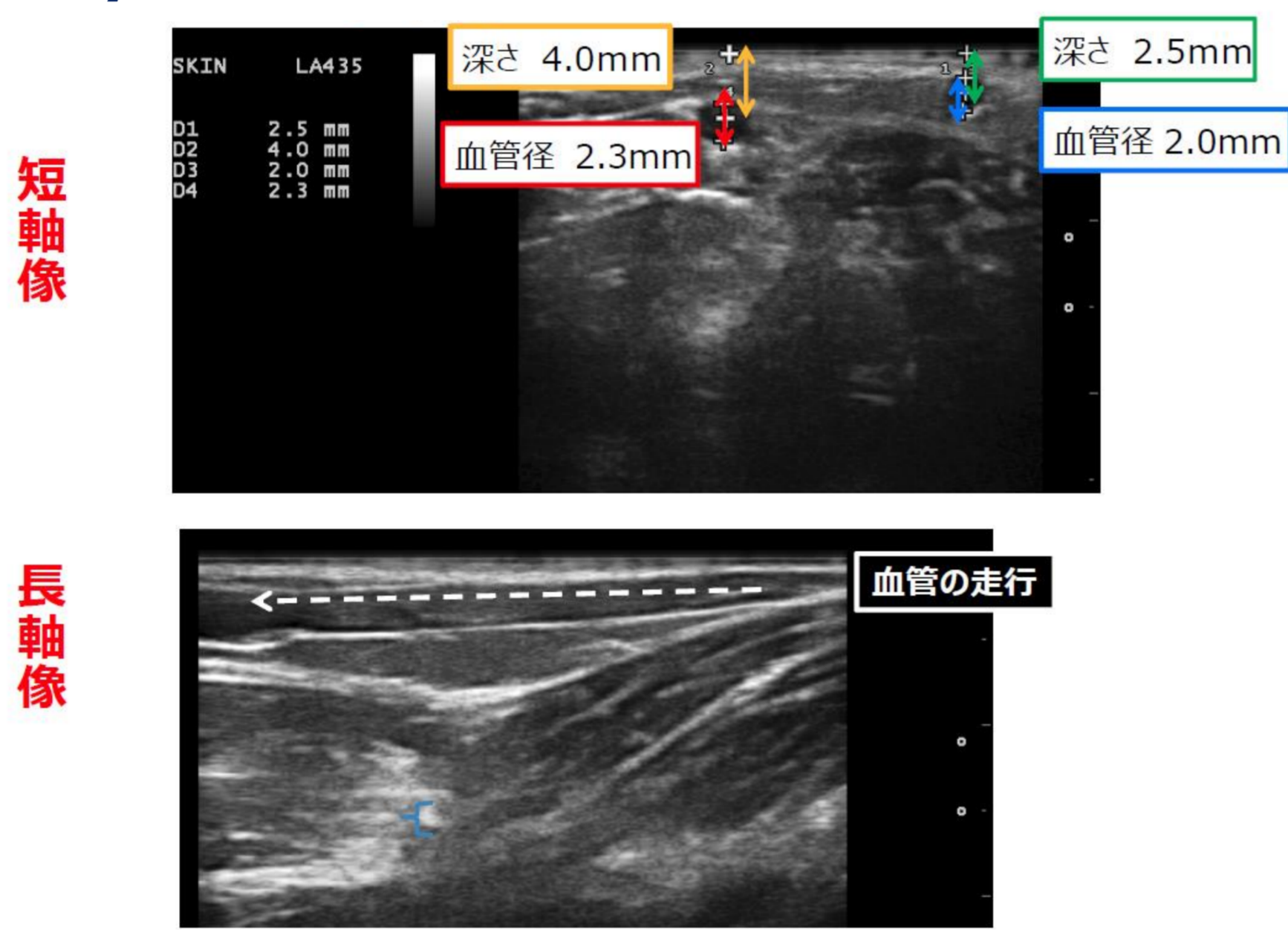
現在、**4プロジェクト**が活動しています。

安全な採血のための血管アセスメント教育技法の開発

血管の走行や深さがわかり、誰もが針の刺入部位と挿入の長さが推察可能な安全な採血を遂行するエコーによるアセスメント法の教育効果を、触診・視診による従来法と比較しました。学生の採血技術修得に効果があるとわかりました。今後、イメージング画像と穿刺技術をリンクさせるためのツールを開発していきます。



My labエコー画像



慢性浮腫管理のためのアセスメント

浮腫評価にポケット型エコー(PUD)がなぜ必要か？

周囲径や外観評価では、重症度評価・ケア効果評価が困難

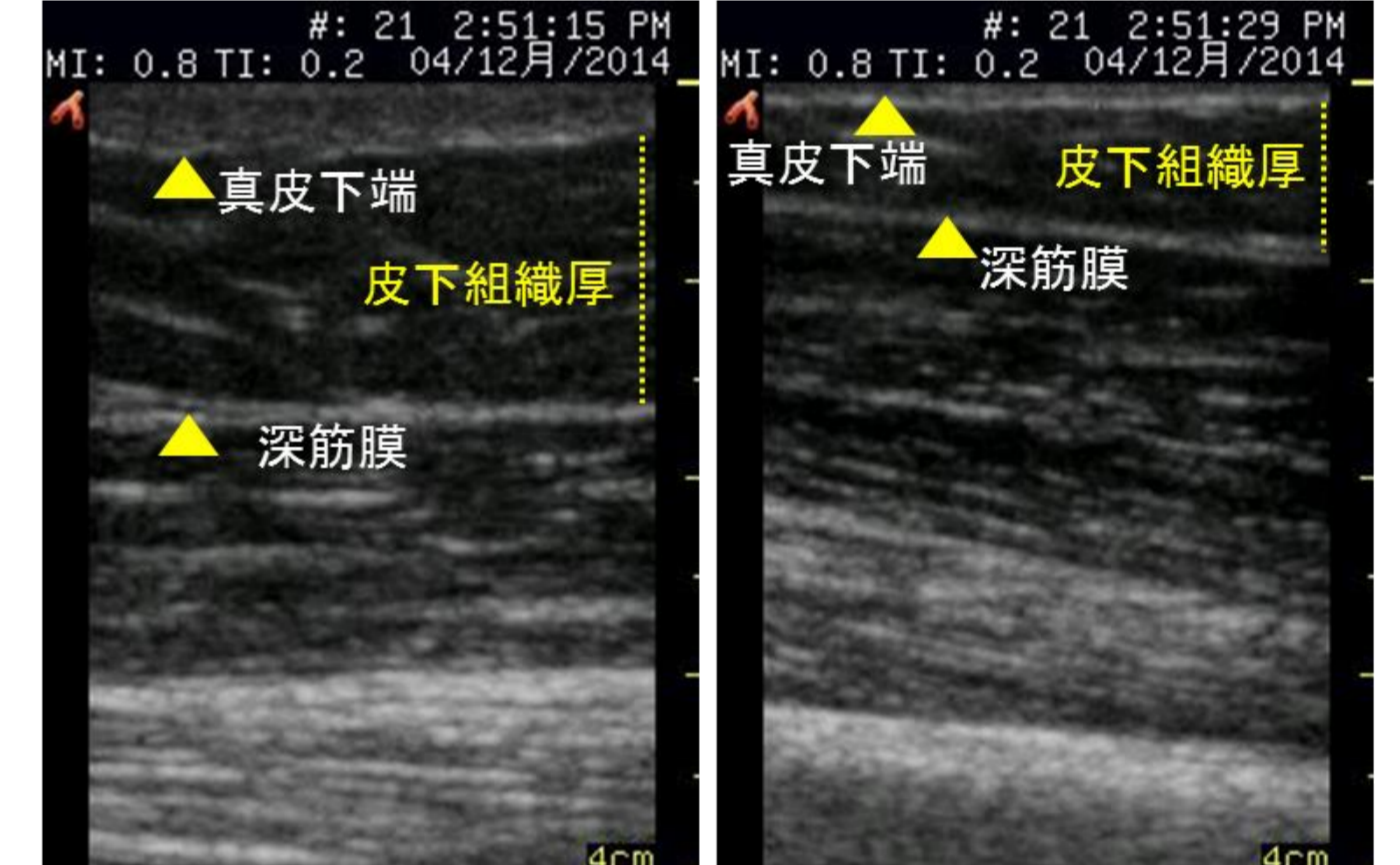


PUDは臨床で利用できる可能性があると示唆

浮腫評価のためにPUDに求められる精度の条件

1. 皮下組織を同定できる
2. 重症度に関連する患肢・健肢の皮下組織の厚みの違いを検出できる
3. 重症度評価、ケア評価に関連する内部性状を観察できる

PUDで浮腫所見はここまで見える



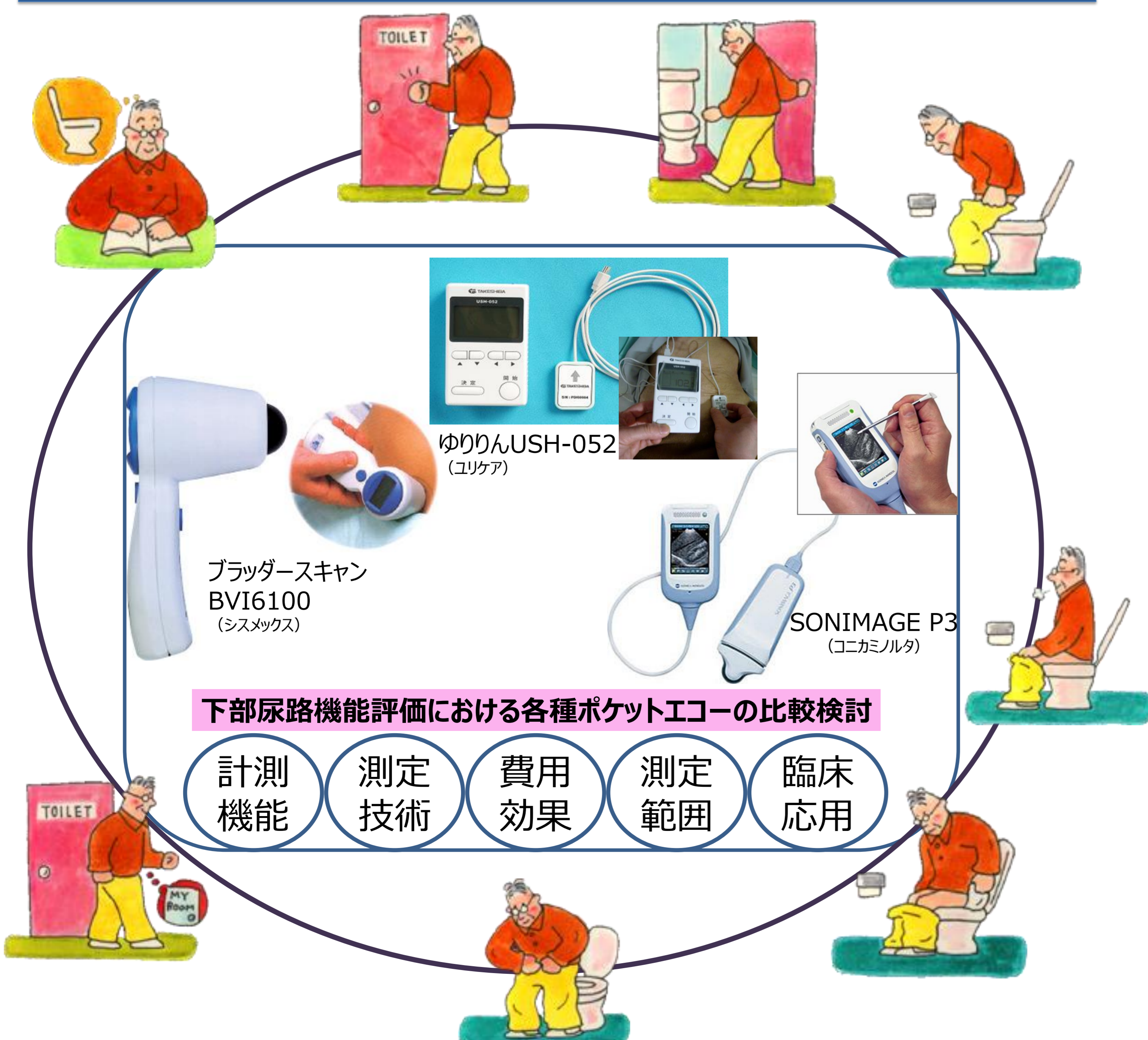
乳がん術後のリンパ浮腫患者 (58歳、リンパ浮腫ISL病期Ⅱ期)

皮下組織厚は、患肢12.0mm・健肢5.1mmと計測することができる。

今後の展望

リンパ浮腫評価に必要な内部性状評価のための条件設定・機能改善への検討

排尿ケアのための膀胱アセスメント



母乳分泌のための乳腺アセスメント

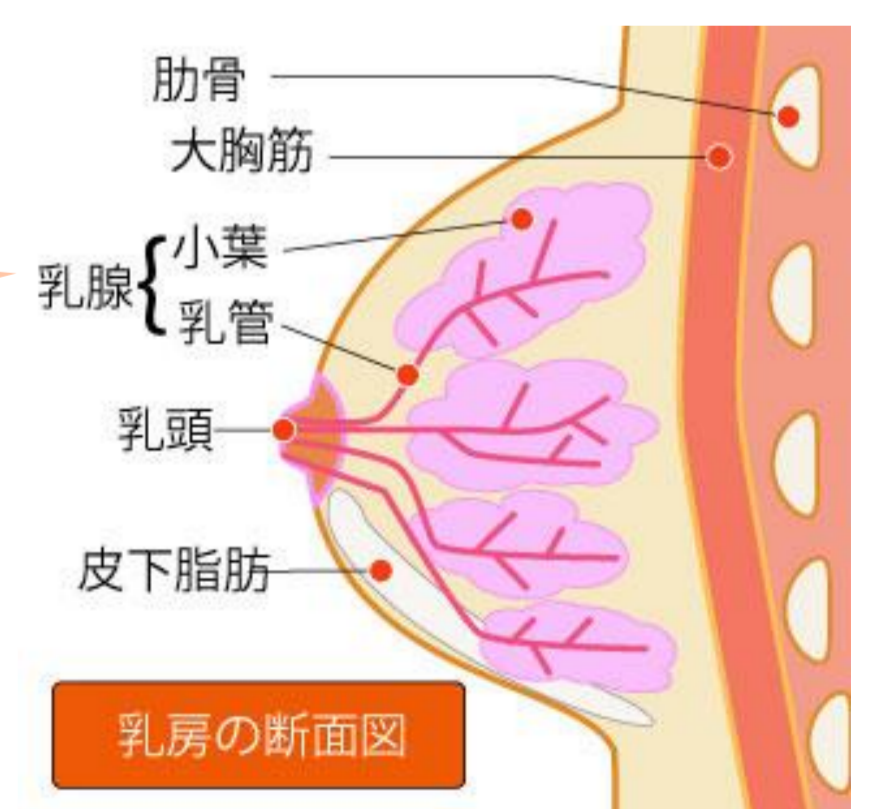
母乳育児は母子双方への利点が大きくWHO/UNICEFによって世界的に推進されています。

母乳分泌は、一般的に出産後の児の吸啜刺激によって促進されますが、様々な要因によって左右されるとされており、そのひとつに母乳の分泌器官である“**乳腺**”があります。

- 妊娠中にホルモンの作用によって発育
- 発育状況により母乳分泌が異なることが示唆

母乳分泌の予測・評価に乳腺のアセスメント必要
しかし・・・主観的評価に差が生じることもある

視診・触診に併せて乳腺発育状況を数値化し客観的に
ポケットエコーを使用 アセスメント



Vscan Dual Probe/GEヘルスケア・ジャパン
・重さ: 436g ・ディスプレイ: 3.5インチ ・リニア探触子(最大周波数8.0MHz)使用

<取り組み内容>



妊娠初期から出産後まで継続的に乳腺を観察、アセスメント指標の検討